



版画

小池暢子氏は一版多色刷り技法（アラプベ技法）と呼ばれる特殊な技法による銅版画で世界的に知られた版画家です。昭和12（1937）年に高知県で生まれ、幼少の頃に家族とともに土別に移住し、中学まで土別で過ごしました。版画家として様々な活躍をし、海外での創作活動を経て帰国した後は、故郷である土別にアトリエを構え、現在でも制作をつづける傍ら、地域の文化芸術の振興に尽力しています。



彫刻

阿部晃工氏は、昭和の時代に活躍した彫刻家です。明治39（1906）年に土別市で生まれ、土別尋常小学校高等科を卒業後に上京しました。苦学の末、東京美術学校に入学し、本格的に彫刻を学びました。三年次には相撲で右肘を骨折し、右腕の自由を失いますが、持ち前の激しい気性と人一倍の努力でこれを克服しました。以後、左手で主に創作を続け、伝説の彫刻職人に例えて「昭和の左甚五郎」と呼ばれました。